

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	公共下水道事業(補助)	会計	下水道	事業No.	301	施策順No.	45-011	
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-2-10-1			
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	下水道課			
施策	45 居住基盤の向上			事業期間	開始	終了	25	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	公共下水道処理区域内(飯田、上郷、伊賀良、鼎、松尾、座光寺、川路及び竜丘駄科の一部A=2,744ha)の市民及び事業所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		計画処理人口(人)	79800	79800	79800	79800	79800	
		公共処理区域内の居住人口(人)	77573	77365	77094	76751	76500	
	意図	下水道の普及率を向上させる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	公共処理区域内の下水道普及人口(人)	72184	75023	75123	75200	75053	75300	B
	飯田処理区の下水道普及率(%) (普及人口)÷(処理区内人口)	93.1	97	97.4	98	97.8	98.4	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	交付金の配分が10%減となったが、概ね目標達成した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	公共下水道処理区域内(飯田、上郷、伊賀良、鼎、松尾、座光寺、川路及び竜丘駄科の一部A=2,744ha)の下水道未普及地区に新たに下水道管を布設し、各戸への公共樹設置工事を行う。 (工事に伴う補償費、測量試験費、原材料費、事務費を含む)			
	・計画処理人口	79,800人		
	・計画区域面積	2,744ha		
	・計画管渠延長	約589Km		
	事業内容		名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 補助事業	宮崎工区 外10か所	1 施工線路延長	1 L=2,084.6m
	2 地震対策事業	箕瀬工区 外7か所	2 施工線路延長	2 L= 762.2m
	3 緊急経済対策(震対)	中ノ町工区外1か所	3 施工線路延長	3 L= 447.0m
	事業合計	21か所		ΣL=3,293.8m
23年度実施計画	1 補助事業	鼎一色工区 外21か所	1 施工線路延長	1 L=1,686m
	2 地震対策事業	高羽町工区 外7か所	2 施工線路延長	2 L=700m
	事業合計	27か所		ΣL=2,386m

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	120,550	120,550	112,100	特定財源内訳、補足事項 社会資本整備総合交付金(国補1/2)、下水道事業債(補助残90%、非補助95%)、受益者負担金
		県支出金	0	0	0	
		起債	83,300	83,300	100,800	
		その他	44,280	39,193		
		一般財源			19,300	
	計(A)	248,130	243,043	232,200		
	正規職員所要時間		4,000			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		14,304			
	トータルコスト A+B		257,347			

4 事業に対する市民や議会の意見

・市民・議会共に早期整備の要望が強くある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	施策の成果指標又はムトス指標	居住基盤の満足度
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	「第5次飯田市下水道整備基本計画」を策定し、計画に基づき下水道未普及地域の整備を行い、公共下水の普及を図った。		
	後期に向けた課題	先行き不透明な経済状況の中、第5次飯田市下水道整備基本計画に基づき、いかに有利な補助金等の財源を確保し、平成25年度皆水洗化に向け管渠の整備を行うか。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	残事業調査を行い、平成21年6月に「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し、計画的に事業を実施した。		
	後期に向けた課題	事業終盤にきており施工上課題がある現場が多い、的確かつ効率的な手法・工法の検討おこない、普及率100%を目指す。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	残事業の精査を行い「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し事業費の削減をはかった。また、事業実施にあたり再生材の利用、小口径マンホールの採用、マンホール蓋の直接調達等により、コスト削減に努めた。		
	後期に向けた課題	「第5次飯田市下水道基本計画」に沿った計画路線の事業実施にあたり、新技術、指針の改定等を注視し、より効率的・経済的な工事方法、資材等の採用をする。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	下水道施設は市が設置する施設である。受益者は下水道排水区域内の市民であり、下水道受益者負担金は都市計画法の「負担の公平」の原理に基づき、認められているものであり適切である。下水道使用料については「汚水にかかる経費は受益を受ける使用者が負担すべきもの」とされ、平成22年に料金改定をおこなった。		
	後期に向けた課題	人口減少、節水型機器の普及等により使用量の減少が予想される、また、平成27年度に下水道事業債の返済がピークとなる、これらを勘案し、平成25年度の次期料金改定における、受益者負担のありかた。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・地元まちづくり委員会に、工事等に係る地元調整をおこなって頂いた。 ・事前にまちづくり委員会と調整を行い、説明会等を開催。 		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・工法、施工等に関する課題が多い路線があり、工事実施前の計画段階にて、地元まちづくり委員会との調整を十分に行いスムーズな事業実施をはかる。 		
全体を通じて	4年間の振り返り	全体事業量・全体事業費の見直しにより「第5次飯田市下水道基本計画」を策定し、平成25年度皆水洗化に向け計画的な事業実施を行った。		
	後期に向けた課題	不透明な経済状況の中、国の動向を注視し補助金等の財源を適正に確保し、第5次飯田市下水道整備計画を、より効率的・経済的に進め平成25年度皆水洗化を達成する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------